

みなみっ子ゆうゆうプラザ



会場	開設	平成30年度の活動状況				
		参加数(人)			曜日・数 開設期間	講座数
久喜市立 栗橋南小	H25. 11. 28	子ども (参加率)	実施委員	サポーター	木曜日 7日 土曜日 3日 計 10日 6/21~1/10	19
		192/515 37.2%	18	105		

実施委員長・校長先生からのメッセージ

実施委員長 中野さとみ

「みなみっ子ゆうゆうプラザ」開設から6年目の今年は、開設当初から運営に関わってくださった田村実施委員長、柿沼副実施委員長、山田副実施委員長に代わり、新体制でスタートしました。仕事を進めていく中で、子ども達のために、「何と温かく、しっかりとした土台を創り上げてくださったことだろう」と感謝の気持ちでいっぱいになる1年でした。

今年はその土台の基に、運営の整理整頓、効率化をはかりながら、見学会などで見聞を広げ新しい試みも積極的に取り入れてまいりました。特に「大人も子どもも、安心して、安全に気を付けながら、無理のない範囲で、おもいっきり楽しめる活動」となるように気を配りました。子どもを通して、実施委員、講師、地域サポーター、保護者サポーターがつながり、新たな交流が生まれ、少しずつ「みなみっ子ゆうゆうの輪」が広がってきたように感じています。みなさまからのお声かけ、そして、さまざまなお協力に感謝申し上げます。

そして、校長先生をはじめ南小の先生方にも、きめ細やかで力強く、温かいご支援とご協力を沢山いただきました。ありがとうございました。

栗橋南小学校 校長 鈴木美幸

「みなみっ子ゆうゆうプラザ」は、多くの皆様のお力添えをいただき、6年目の今年も大きな成果を収めることができました。中野実施委員長様をはじめとする実施委員の皆様、サポーターの皆様、運営委員の皆様、PTAの皆様に心より感謝申し上げます。

今年度も新たな講座を開設したり、講座内容を工夫したりして、さらに充実した活動をしていただきました。また、子供たちは、大正琴を演奏したり、囲碁の大会に出場したりと、講座での活動をさらに地域で発表する機会もいただきました。

子供たちは「みなみっ子ゆうゆうプラザ」で、多くの方々とふれあう貴重な体験を通して、多くのことを学び、さらに心豊かに成長することができました。

今後とも、学校・家庭・地域の絆の中で、子供たちが健やかに成長していくことができますよう、御協力・御指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

木曜講座

新規開講



ダンススポーツ



陸上競技

新規開講



ドッジボール

新規開講



卓球



ガラス絵

新規開講



アレンジフラワー



手芸



スタンプ・アート

木曜講座



チャレンジ・囲碁



サイエンス・ラボ



合奏



大正琴

新規開講



楽しい英語あそび



みな♣ゆう（児童実施委員）

新規開講



お助け隊



室内遊び



お楽しみ会



英語であそぼ



クリパ

みなみっ子ゆうゆうプラザの成果

- **スポーツ講座の増設、新規講座を開設し、子どもの参加意欲を誘う工夫をした。**

これまで1つしかなかったスポーツの講座を4つにし、活発に動きたい子どもたちのニーズに応えるとともに、新しい講座を設けることで、子どもたちに新鮮な気持ちでさまざまな体験をしてもらえるようにした。
- **講師、保護者サポーター、地域サポーターとのコミュニケーションが増えた。**
 - * 講師との連絡を密にし、講座の活動状況を把握するように努めた。
 - * 「みなゆうステーション」「ナースステーション」を設置し、保護者サポーターへ、分かりやすい協力要請ができるように工夫した。
 - * 地域サポーターの参加状況、活動の内容を把握し、活動への理解を深めてもらえるように努めた。
- **学校との連携を大切にし、安全に安心して活動できる環境に近づける努力ができた。**

活動の状況を学校と共有し、子ども達がゆうゆうを通して、心も体も健やかに成長できるように「子ども同士でおこった出来事」や、「安全に活動するために必要な事項の確認」など連絡を密に行うように努めた。
- **子ども達、講師、地域サポーター、保護者サポーターの声など**

「また来年も続けたい」「具合が悪くてもゆうゆうは休みたくない」「発表できて楽しかった」「いろんな物が作れてよかった」「普段やらせてあげられない体験ができて良かった」「親子で楽しめた」「高齢だが頑張りたい」「子どもから元気をもらえて楽しい。娘から若返ったねと言われた」

みなみっ子ゆうゆうプラザの課題

- 1) 実施委員・講師・サポーターの協力体制の維持・確保
- 2) ゆうゆうプラザへの地域の人々のさらなる理解
- 3) 講座の維持・新規開拓・活動のあり方
- 4) 子どもに興味を持たせる。活動における子どもとの接し方